

でんでん通信 第四百十八号 令和八年六月

坐禅会

六月二十七日(土) 十時より開催します。
みなさんのご参加お待ちしております。

お盆のおまいり(棚経)について

初盆のおまいりのお家は、早めに予定日をご連絡ください。また、例年のお盆参りにお伺いする予定ですが、都合悪いお家は、調整しますので早めにご連絡ください。

日本サッカー代表監督 森保一氏

いよいよ六月十一日よりカナダ、メキシコ、アメリカで48チームが参加するFIFAワールドカップ2026が始まります。日本はグループF組でオランダ、スウェーデン、チュニジアと同じ組で対戦します。

この日本代表を率いるのが、森保一(もりやす)はじめ)監督です。

現役時代はサンフレッチェ広島島の選手として活躍されました。しかし当初はあまり知られた選手ではなかったのですが、1992年4月、日本代表監督にオフト氏が就任すると日本代表に選ばれました。

その時でも他の代表メンバーの何人かは存在自体を知らなかったという無名選手の大抜擢で、「森保」を「もりやす」と読めなかったといえます。

そんな森保選手も何度も日本代表選手に選ばれ、

いなくてはならない選手となってきました。

一九九九年、広島の選手としては初のJリーグ通算二〇〇試合出場を達成し、二〇〇四年一月、現役選手を引退しました。

監督としては、二〇一二年、サンフレッチェ広島に就任し、日本人新人一年目監督として優勝翌年にも優勝 三年目こそ八位でしたが、四年目にはまた優勝という結果を出して、その実績を買われて、二〇一八年に東京五輪に出場する23才以下の日本代表監督に就任しました。

そして二〇一八年七月より日本A代表監督として就任しました。

森保監督といえば、三月二〇日のW杯アジア最終予選バーレーン戦の試合に先立ち、行われた国歌斉唱で感極まる様子が見られるなど、たびたび涙を流す様子で話題となりました。

番組視聴者から「どうして国歌斉唱の時に泣くんですか」と聞かれた森保監督は「国歌を歌って試合ができるというのは、日本人である誇りと喜びがあふれてきて、歌っている時は日本人で良かったと、ここから試合で全てをぶつけたという思いで涙が出てきます」と理由を明かしました。

また代表選手を選ぶ時、ベンチ入りの選手を選ぶ時にも、苦渋の決断を下し、選ばれない選手、ベンチに入れない選手には、監督自らそれぞれの選手を訪ね、面談し、納得してもらおうよう説得しているといえます。選手は、日本代表に選ばれ、今まで応援してくれた家族、知人にその喜びを伝えたのに、いざ大会出場かと思ったら、ベンチにも入れず裏方と

なってしまう選手もいます。そんな選手の中には、「どうして出場できないのか」

「知り合いに自慢したのに、こんなことなら代表選手に選ばれなかった方がよかった」

という選手もいるでしょう。そんな選手たちを説得し、チームをまとめて日本代表として試合に臨む。

監督、人として人望、信用がないと務まりません。そんな監督は、コーチ、選手との話し合いに次のような話をするそうです。

選手たちには利己と利他、対になる言葉ではありませんが、この両方が必要です。自分の価値を高めようとする向上心と、チームのために戦う犠牲心です。それと同様、チームにおいても個性と組織の両輪を求めています。そうした両輪を発揮してくれる選手たちを選ばせてもらいました、と。

仏教用語には「自利利他(じりりた)」という教えがあります。「自分の幸せ(利益)が他人の幸せにつながり、他人の幸せが自分の幸せにもなる」という、お互いに喜び合える状態を指します。利己と利他を対立するものとして捉えるのではなく、他者のために行動すること(利他)が巡り巡って自分を豊かにすること(利己)に繋がる。

小さい頃から、サッカー一筋、上へ上へと目指してきたプロサッカー選手。面子やプライドの塊のような選手。海外でプレーし日の丸を背負って活躍する日を夢見てきた選手。

そんな選手たちの気持ちがわかる森保監督。

いよいよ四年に一度の世界大会。これから毎日のように盛り上がることでしょう。がんばれ日本!